

Multilingual Electronic Newsletter

多言語メールマガジン

かごしま南の風便り

Kagoshima Southern Wind Tidings



VOL.193

▽トピックス

[1 国際交流員のコラム（鹿児島県国際交流員 キム・ジュヒ）](#)

- 人生初のおはら祭りに参加しました！

[2 知事の動き](#)

- 在京都フランス総領事が訪問しました(10月11日)
- ジャパン・ハウス・ロサンゼルスにて鹿児島県産品のPRを行いました(10月25日)
- 南加鹿児島県人会亡者追悼法要へ参加しました(10月26日)
- 南加鹿児島県人会主催歓迎昼食会に参加しました(10月26日)
- 全米日系人博物館の視察及び Go For Broke 碑での献花を行いました(10月26日)
- 南加鹿児島県人会創立125周年記念式典及び祝賀会に出席しました(10月27日)

[3 観光かごしまのイベント情報](#)

- 妙円寺詣り(10月26日,27日)
- かのやばら祭り 秋(10月26日~11月24日)

国際交流員のコラム

●人生初のおはら祭りに参加しました！●

—鹿児島県国際交流員 キム・ジュヒ（韓国出身）—

11月2日から3日まで鹿児島市で開催された第73回おはら祭に参加しました。おはら祭は1949年に始まった南九州最大規模のお祭りです。おはら祭りの総踊りには約2万人を超える人々が参加し、鹿児島の人にはなじみのある郷土民謡「おはら節」や「鹿児島ハンヤ節」、そして渋谷の鹿児島おはら祭で使われる「渋谷音頭」などの曲に合わせて南九州最大の繁華街、天文館一帯で行われる鹿児島の秋を代表するお祭りです。

私は2日の夕方に行われた前夜祭に県庁おはら同好会の一員として参加しました。おはら祭の数日前から練習に参加し、万全の準備をしました。私はおはら祭に参加するのが初めてだったので、ちゃんと踊ることができるか心配していましたが、意外と振りが簡単で繰り返しの振りもたくさんあって、すぐ覚えることができました。また、曲も初めて聞きましたが、とても楽しくて曲に身を任せて楽しく練習することができました。



おはら祭りの名物「花電車」

当日、国際交流課の仲間たちと天文館に集合しました。すでにたくさんの参加者と見物人が集まっていて、お祭りの雰囲気で盛り上がっていました。県庁のおはら同好会は、朝日通りから天文館通まで、市電2駅ほどの距離を



県の特産品がプリントされたハッピーを着ました

約1時間の間踊りながら移動しました。最初は1時間も踊るということで大変ではないかと心配していましたが、思ったよりは前に進まず、合間合間に休む時間もはさまれていたのです、そこまで力を入れずに踊ることができました。本番に向け練習を繰り返しましたが、やはり100パーセント完璧に踊るのは簡単ではありませんでした。しかし、私が参加した前夜祭は、おはら祭を楽しみたい人は誰でも参加できる時間だったので、私のミスもかわいく見てもらえた



塩田知事と国際交流員の同僚

と思います（笑）

私はお酒が苦手なので普通にお茶を飲みましたが、お酒が好きな方々は鹿児島県の代表特産品である芋焼酎を飲みながらおはら祭を楽しみました。

国際交流員を目指して準備した時から日本で一番やってみたかったことの一つがその地域の祭りに参加することでした。今回、その目標を達成することができて本当に



おはら節を踊っている私です(笑)

嬉しくて楽しかったです。鹿児島最大の祭りであるおはら祭は、簡単な振り付けさえ覚えれば誰でも参加できる祭りです。私のような外国人も喜んで入れてもらえるおはら祭で、鹿児島と鹿児島の人々の情を感じることができました。これは本土の最南端に位置しているため昔から開放的な姿勢で多様な文化や物を受け入れた鹿児島の地域的特性とも関係があるかも知れないと思いながら私は今日も頭の中から離れない「渋谷音頭」を口ずさんでいます(笑)



県庁おはら祭り同好会の集合写真

知事の動き

●在京都フランス総領事が訪問しました（10月11日）●

在京都フランス領事館よりサンドリン・ムシエ在京都フランス総領事がいらっしゃいました。

総領事からは、桜島の美しさや、鹿児島県民の優しさ、本県の島々がもつ文化や自然、言葉が非常に多様であり興味深いことに加え、カリブ海にあるフランス領のマルティニークは、火山やサトウキビ、サトウキビを元に造られるラムなど共通点が多いとのお話がありました。

今回の訪問が本県とフランスとの交流のより一層の発展につながれば幸いです。



●サンドリン・ムシエ総領事と

●ジャパン・ハウス・ロサンゼルスにて鹿児島県産品のPRを行いました（10月25日）●

ロサンゼルスハリウッドにある日本の魅力を発信する外務省の施設「ジャパン・ハウス」において、現地の食料品やアパレルのバイヤー、レストラン、雑貨店のオーナー、シェフ等約60名を招待し県産品のPRレセプションを開催しました。

レセプションでは、鹿児島県産牛肉のカッティングデモンストレーションや麴を使った発酵文化についてのセミナー等を実施しました。

また、ミシュラン一つ星を獲得されたレストラン「UKA」に、ブリや鰻などの水産品と味噌・醤油などを使用した特別メニューをご披露いただき、ゲストの皆さまにご堪能いただきました。

参加者からは「和牛のカッティング技術の迫力やサシの美しさに驚いた」、「鹿児島県産和牛ならではのうまみを感じることができ、目でも舌でも最高の体験だった」と高い評価をいただきました。

ほかにも、県の伝統的工芸品を代表して、本場大島紬、薩摩切子、甲冑等の展示を行ったところ、参加者からは「鹿児島県の歴史と伝統を感じ、ぜひ鹿児島を訪れたい」という感想もいただき、食や観光、伝統的工芸品と幅広い切り口での本県の魅力発信につながったところ です。

レセプション開催にあたり、在ロサンゼルス領事館様、ジャパン・ハウス様、JETRO ロサンゼルス様、南カリフォルニア県人会様をはじめご協力いただいた多くの方々に感謝申し上げます。



●セミナーでの挨拶の様子



●会場の様子

●南加鹿児島県人会亡者追悼法要へ参加しました（10月26日）●

米国・ロサンゼルスで、南加鹿児島県人会の創立125周年に関連して行われた先亡者追悼法要に参列し、県人会の活動を支えてこられた先輩方の御霊を追悼してまいりました。

南加鹿児島県人会が、創立から125周年の長きにわたって活動を続けてこられたのも、遠く異国の地に移住され、ご労苦を重ねて来られた今は亡き先人の皆さまの、鹿児島県人としての強い絆があってこそそのものと心に刻みました。

先亡者の御霊の、とこしえに安らかならんこととお祈りいたします。



●追悼法要の様子

●南加鹿児島県人会主催歓迎昼食会に参加しました（10月26日）●

米国・ロサンゼルス市において、南加鹿児島県人会役員の皆さまに開催していただいた昼食会に、カリフォルニアへの移住者がおられる自治体の市長や経済団体の皆さまとともに参加し、お祝いを述べさせていただきました。

大原フランク義文 南加鹿児島県人会会長からは、「同じ地域の出身者同士、多くを語って懇親を深めていただきたい。」とのお話をいただきました。会では、県人会の皆さまのお仕事や暮らし、県人会活動などさまざまなお話を伺い、親睦を深めることができました。



●大原フランク義文 南加鹿児島県人会会長と

●全米日系人博物館の視察及びGo For Broke 碑での献花を行いました
(10月26日) ●

南加鹿児島県人会の創立125周年記念式典及び祝賀会への参加のため訪れた米国・ロサンゼルス市で、日系アメリカ人に関する遺物や写真、フィルム、文書の広範囲にわたるコレクションを展示し、日系アメリカ人の物語を全米、全世界に伝えるために1992年に開館した全米日系人博物館を訪れました。

この博物館は、日系アメリカ人の体験を伝えるアメリカで初めての施設で、さまざまな展示や教育プログラム、ビデオ、出版物の作成を通して、日系アメリカ人の物語を全米、全世界に伝えています。

また、第二次世界大戦中に従軍した日系アメリカ人を顕彰するものとして建てられたGo For Broke 碑での献花を行いました。



●南加鹿児島県人会の皆様と



●全米日系人博物館の様子

●南加鹿児島県人会創立125周年記念式典及び祝賀会に出席しました
(10月27日) ●

米国・ロサンゼルス市内で開催された「南加鹿児島県人会創立125周年記念式典及び祝賀会」に出席しました。

1899年の創立以来、夢と希望を失うことなくたゆみないご努力を積み重ね、鹿児島との絆を大事にし、助け合って幾多の困難を乗り越え、125周年という記念すべき年を迎えられた南加鹿児島県人会の皆さまに対し、私から、深い敬意を表するとともに、県人会の皆さまの長年のご労苦をねぎらいました。また、あわせて南カリフォルニアにおいて鹿児島県人としてご活躍されてこられた方々への表彰をさせていただきました。

同時に開催された祝賀会においては、県からの訪問団や県人会員の皆さまをはじめ、多くの関係の方々とともに、盛大にお祝いしました。



●南加記念式典及び祝賀会での挨拶の様子



●会場での鏡開きの様子

観光かごしまの旬の情報

●妙円寺詣り（10月26日,27日）●

鹿児島県の三大大行事であり、鹿児島市内から日置市伊集院町までの約20kmの道のりを歩いて参拝する伝統行事。

敵中突破後苦闘の末、帰還を果たした義弘公をしのび、泰平の世に士気を鼓舞し、心身の鍛錬をするため、鹿児島城下の武士たち（庶民は明治以降）は関ヶ原の合戦前夜の9月14日（旧暦）、往復40キロの道のりを鎧・兜に身を固め、夜を徹して義弘公の菩提寺である妙円寺に参拝し始めました。廃仏毀釈で徳重神社に変わってからも参詣は続きました。現在は郷土芸能の奉納や武道大会、家族連れで賑わうウォークラリーなど、5万人を越す人でにぎわいます。



●会場の様子「© K. P. V. B」

●かのやばら祭り 秋（10月26日～11月24日）●

秋に咲くバラは、ゆっくり花を咲かせるので色・香りが濃く一輪が大きいのが特徴です。

今年は、「高須中大道芸フェス2024」が「かのやばら祭り2024秋」のオープニングイベントとして初開催。

土日祝には簡易ドックランやミニカフェ、キッチンカーフェス、ステージイベントやバラにまつわる体験などが催されており、賑わいを見せております。



●数多く咲き誇る色とりどりのばら

